

平成30年度 学校評価表（自己評価・学校関係者評価・第三者評価）

白樺学園高等学校（全日制普通科）

|      |   |
|------|---|
| 基本方針 | <学園訓>「公德実践」:人として正しい考えを身につけ、人々のために尽くし、もって社会の発展に貢献する。   |
| 教育目標 | 1. 確かな学力と感性豊かな心、強い体を持つ生徒の育成。<br>2. 社会の変化に対応し、逞しく生き抜く精神力を備えた生徒の育成。<br>3. 失敗を怖れず、何事にもチャレンジする意欲を持った生徒の育成。<br>4. 真の文武両道を目指す生徒の育成。<br>5. 明るく挨拶の出来る生徒、「ありがとう」と感謝の気持ちを素直に伝えられる生徒の育成。 |

|   |  |
|---|--|
| 平成30年度 学校経営方針                             |  |
| ○「やってみせ、言って聞かせ、させてみせ、ほめてやらねば、人は動かじ」       |  |
| ○「話し合い、耳を傾け、承認し、任せてやらねば、人は育たず」 ※(三項目校長方針) |  |
| ○「やっている、姿を感謝で見守って、信頼せねば、人は実らず」            |  |

|       |   |
|-------|---|
| 達成度   |   |
| 十分に達成 | 4 |
| 概ね達成  | 3 |
| やや不十分 | 2 |
| 不十分   | 1 |

| 分野    | 領域     | 評価項目                                       | 自己評価 |     | 学校関係者評価 |     |            |
|-------|--------|--|------|-----|---------|-----|------------|
|       |        |  | H29  | H30 | H29     | H30 |            |
| 学校運営  | 校務運営   | 1 学校運営方針の共通理解と協力的態勢の形成・実践。                 | 2.9  | 2.5 | 3.5     | 3.3 | ●特に意見・要望なし |
|       | 教員体制   | 2 教員の意識改革・サービスの遵守・適切な教員配置・実践的指導力の向上。       | 2.7  | 2.2 | 3.1     | 3.3 | ●特に意見・要望なし |
|       | 学校改革   | 3 2020年教育改革を見据えた準備と取り組み。                   | 3.1  | 2.5 | 3.5     | 3.7 | ●特に意見・要望なし |
| 学習指導  | 授業方法   | 4 授業方法の工夫・改善による理解できる授業の展開。主体的・対話的で深い学びの実現。 | 2.8  | 2.7 | 3.3     | 3.5 | ●特に意見・要望なし |
|       | 基礎学力   | 5 基礎学力の定着を重視し、到達度の低い生徒に対する適切な取り組みを行う。      | 2.6  | 2.6 | 3.3     | 3.8 | ●特に意見・要望なし |
| 進路指導  | 調査・面談  | 6 進路希望調査の実施、個人面談・三者面談による生徒理解と分析。           | 3.0  | 3.1 | 3.5     | 3.3 | ●特に意見・要望なし |
|       | 進路分析   | 7 就職先・進学先についての情報の蓄積と共有。                    | 3.0  | 3.0 | 3.5     | 3.7 | ●特に意見・要望なし |
|       | 職業観育成  | 8 生徒の職業観・進路意識の育成。                          | 3.0  | 2.8 | 3.3     | 3.8 | ●特に意見・要望なし |
|       | 推進力の強化 | 9 3年間を見据えた進路計画の設定と実施。推進力を発揮し各学年をリード。       | 2.8  | 2.4 | 3.3     | 3.7 | ●特に意見・要望なし |
| 行事の充実 | 生徒会行事  | 10 自発的、自治的な組織活動の指導。                        | 2.6  | 2.6 | 3.6     | 4.0 | ●特に意見・要望なし |
|       | 学校行事   | 11 愛校心・道徳心・社会性・公共性・安全性等を育む行事づくり。           | 2.9  | 2.7 | 3.5     | 3.8 | ●特に意見・要望なし |

| 分野      | 領域        | 自己評価 |  |  |     | 学校関係者評価 |   |     |       |   |
|---------|-----------|------|--|--|-----|---------|---|-----|-------|---|
|         |           | 評価項目 | 具体的方策                                      | H29  | H30 | 次年度への課題 | H29   | H30 | 意見・要望 |   |
| いじめ防止対策 | 方針の立案     | 12   | いじめに対応する方針内容の確認ならびに見直し。                    | いじめ防止対策のための方針内容を適宜見直しを図り、それを教職員及び生徒・保護者に周知する。(HPに掲載)                     | 3.4 | 3.0     | ●アンケート等で調査を行い、対策ができていない。●いじめ調査の継続の実施。担任の断続的個人面談の実施が必要。●抜けている観点。学年・学級通信やClassiなどを利用して生徒・保護者への定期的な啓蒙は必要。●いじめはいつも水面下。皆がもうすこしアンテナを張るべきである。                                  | 3.8 | 3.8   | ●特に意見・要望なし  |
|         | 防止対策の組織化  | 13   | いじめ防止対策委員会を中心とした組織的な取り組み。                  | いじめ認知の共通理解と情報共有により、未然防止・早期発見・早期解決を全教職員による組織的な取り組み。                       | 3.2 | 3.0     | ●アンケートが有効活用されているので、継続的に行う。●いじめ防止対策委員会の取り組みの継続。●クラスと部活動が直結する体育コースは人間関係でトラブルと学校を辞めることが多いので、担任と顧問との連携が必要。●全教職員による組織的な取り組みが、今後の課題である。                                       | 3.6 | 3.8   | ●特に意見・要望なし  |
|         | 防止対策      | 14   | 教職員といじめ防止対策委員会との連携・情報収集の重視。調査の有効活用。        | いじめ調査、QUテストの定期的な調査実施と有効活用。防止対策を担う組織(防止対策委員会)の機能的な取り組み。                   | 3.5 | 3.0     | ●QUテスト・いじめ調査が有効活用されている。ただ、1回目のQUテストは結果が出るのに時間がかり、結果が届くころには人間関係が変わっている。●スクールカウンセラーの常駐を望む。●担任・副担任・部活顧問との情報共有が必要。  | 3.6 | 3.7   | ●未然防止・早期発見・早期解決のためにも、今後もアンケートを含め、継続的な取り組みをお願いしたい。 |
| 生徒指導    | 指導体制      | 15   | 全教職員が方針のもとに、一貫性を持った指導体制。生徒・保護者との信頼関係の構築。   | 社会のルール・モラルを守る態度の育成に努め、全教職員並びに学年団の組織力で一貫した指導を行う。(ぶれない指導)                  | 2.5 | 2.5     | ●教職員によってルールや物差しが違う、年々ギャップが大きくなっているのは問題である。●白樺ルールではなく、社会のルールの遵守を見据えた指導をするのであれば、教職員の意識・基準を上げることが必要である。●全教職員で一貫した指導の見直しが必要。●携帯電話の使用は甘んじてきている。指導の徹底が必要。                     | 3.0 | 3.2   | ●生徒間で不平等を感じさせない、一貫した指導をお願いしたい。                    |
|         | 規範意識      | 16   | 実社会で通用する人間性の教育。挨拶の励行と、場面に応じた正しい言葉遣いの指導。    | 教職員の意識改善(生徒との接し方)。挨拶・身だしなみ・遅刻防止等の全教職員による日常的な生徒指導。問題行動を防止するための啓蒙。         | 2.5 | 2.5     | ●生徒に対しての言葉遣いを考える必要がある。●教職員に対して正しい言葉遣いができない生徒が多い、指導と教職員の意識向上が必要。●注意をする教員、注意しない教員がいるのが現状。ぶれない指導が響いていない。   | 3.3 | 3.5   | ●特に運動部の生徒の挨拶が良い。                                  |
|         | 生活指導      | 17   | 校則に基づいた頭髪指導、服装指導、集団への帰属意識。                 | 毎月の全校集会での頭髪服装検査へ向けての事前指導と事後指導の実施。  | 2.7 | 2.8     | ●事前指導はまったくされていない。●頭髪のチェックは指導部だけではなく、教科担任・担任でも行われなくては結果が出るのは難しい。●全校集会後、教室ですぐに化粧。教科担任も担任もしっかりと注意をしない事が多い。●もっと厳しく、徹底するべきである。   | 3.3 | 4.0   | ●特に意見・要望なし  |
|         | 安全指導      | 18   | 登下校時の自転車運転マナーと盗難防止。ネット関連・薬物等の事故未然防止のための啓蒙。 | 交通安全指導、自転車の2重施錠の指導。青少年問題に関する特別講演の実施。危機管理意識の向上。(教室の施錠等)                   | 2.8 | 2.4     | ●事故の未然防止的な取り組みは見えない。残念ながら後手手となっている。●盗難防止、自転車運転マナーへの取り組み強化が必要。●自転車のいたずら、盗難が多く発生しているため、防犯カメラの設置を強く要望したい。●生徒の教室の施錠の意識が低くなってきている。   | 3.3 | 3.5   | ●特に駐輪場への防犯カメラの設置を要望します。                           |
|         | 生徒支援      | 19   | 要支援委員会、教育相談室、家庭との連携、公的支援団体との連携、研修。         | 担任と要支援委員会との連携並びに生徒への支援対策と教育相談員による生徒支援。家庭連絡・訪問の実施。高生連・生指連等との連携・研修参加。      | 3.2 | 3.1     | ●相談員・養護教諭が生徒の相談・サポートをしてくれているので、感謝している。●要支援委員会・相談員は担任へ引継ぎ、担任を支えてほしい。●組織的に動いている。継続を。●相談の場が少なく、相談員と担任との話し合いの場がもっと必要だと思う。●生徒支援に関する研修が必要。                                    | 3.3 | 3.8   | ●特に意見・要望なし  |
| 環境施設    | 保健・美化     | 20   | 学校の美化・衛生面の充実と生徒の健康。省エネ・エコの取組と生徒指導。         | 厚生部・生徒会厚生委員会・PTA施設部を中心に、HR単位での美化・衛生・エコに取り組む。                             | 2.7 | 2.5     | ●学校職員だけではなく、生徒会を中心として生徒会役員・学級の委員会活動にも働きかけが必要と思われる。●部活の関係もあるが、教室は進学・教養コースの方が綺麗なのが現状である。●ゴミ分別に対する意識が低い。●生徒・教職員の教室美化への意識づけが必要。●体育コースの部活後の教室使用の指導の徹底が必要。●エコへの意識・取り組みの向上が必要。 | 3.5 | 3.5   | ●特に意見・要望なし  |
|         | 施設・設備     | 21   | 学習環境の充実・施設・設備の点検・補充。学校バス路線拡充。              | 障害者への合理的配慮がなされた設備と環境づくり。分掌・教科・担任での点検を行うと共に、生徒への公共心を養う。学校バス路線拡充による効果と影響力。 | 3.2 | 3.0     | ●下校バス、部活下校バスの2パターンがあり、生徒にとって良心的である。●札内方面の延伸に期待している。●学校バスの老朽化で、生徒の安全面を優先し入れ替え、もしくはリースの検討が必要。●非常時における対応が充分とは言えない、火事の際ドアがロックされていたら避難ができない。●障害者への配慮と対応が不十分。                 | 3.6 | 3.7   | ●学校バスの増車、路線の拡充(札内方面)を要望します。                       |
| 地域との連携  | 開かれた学校づくり | 22   | 本校の校舎施設を地域に開放し、地域貢献に努める。                   | トレーニング室・体育館・グラウンドの運動施設、特別教室など依頼に応じて開放する。中学生対象の学び直し教室、女子サッカースクールへの取り組み。   | 3.3 | 3.2     | ●学び直し受講者から「学び直しのおかげで、人生が変わった」という言葉を頂いた。今後も継続して実施。●開かれた学校づくりに近づいた一年だったと思う。●今以上に一般へ開放し、本校の良さに気づいてほしい。●トレーニング室・体育館をより充実させてほしい。スポンサーも募るべき。●3ヶ年計画がまだ完了していないように思う。            | 3.9 | 4.0   | ●特に意見・要望なし  |
|         | 連携・協力     | 23   | 地域の教育行政、各種文化団体、ボランティア団体等との協力・連携。           | 芽室町・帯広市の教育行政や、地域の要請に対して可能なものは協力的に連携を図る。                                  | 3.1 | 3.2     | ●連携協定等、学校長を中心に報道され、認知されている。●芽室町議会との取り組み等、前向きな活動が見られて良い。●進路指導における芽室町商工観光課との連携が良い。今後も継続。  | 3.6 | 3.8   | ●特に意見・要望なし  |
|         | 情報公開      | 24   | 本校の教育実践や成果をHPや広報誌等で積極的に発信する。               | 本校ホームページ・PTA便り・体文ニュース・各分掌からの通信の内容充実。                                     | 3.4 | 3.7     | ●HPは頻りに更新されており、閲覧者も多いと思うので、継続を。●非常に充実した内容で、素晴らしいと思う。●学校行事の楽しそうな場面が少なかったため、今後はもっと増やしたい。●スポーツ面は良いが、知の部分では不十分。   | 3.9 | 4.0   | ●充実しており、今後も継続をお願いしたい。                             |
| 総体評価    | 学校教育目標    | 25   | 全ての生徒に親切的な教育、楽しく魅力ある学校生活を実現する。             | 教育目標を達成すべく、教職員がそれぞれの持ち場で工夫・努力する。   | 2.9 | 2.6     | ●共通の意識を持った指導ができていない。●「イメチェン元年」のためのソフト、ハードの改革。カリキュラムの再考が必要。●業務が多く、いっぱい、いっぱいな感じが漂う。●授業での工夫・努力はされていると思うが、全体的には向上心が少ない。●教職員のやる気の差がありすぎる。●教職員の第一義は部活ではなく授業である。               | 3.3 | 3.5   | ●特に意見・要望なし  |
|         | 学校評価      | 26   | 学校評価におけるPDCAマネジメントサイクルの機能化と情報公開。           | 自己・関係者・第三者による評価と課題を明確化し、次年度へつなぐ。評価結果を公開(HPを含む)する。                        | 3.0 | 2.9     | ●概ね良い、継続して行う。●第三者が評価表を作っても良いのではないかと。●毎年同じ課題や反省が出てくることこそ問題である。●毎年同じ議論が多く、Action改善が弱い。●学校評価の結果を踏まえ、次年度への課題として分掌・教科・学年等の改善のActionまで至っていない。                                 | 3.4 | 3.8   | ●特に意見・要望なし  |
| 平均      |           |      |  |  | 3.0 | 2.9     | 平均  | 3.4 | 3.7   |   |

| 学校評価アンケート結果(生徒・保護者)及び自己評価委員会のまとめ  |  |
|---|--|
| <p>マークシートにおける回答項目の肯定的回答(十分達成している・概ね達成している)が相対度数で全体の75%以上は良い評価、75%以下は改善が求められる評価として判断している。昨年度と比較し、肯定的回答が75%の基準を超えている項目は生徒アンケートでは20/30項目となり、昨年度の24/30項目から減少した。また、保護者アンケートでは29/30項目で肯定的回答が基準の75%を上回った。しかしながら、今年度の保護者アンケートの回収状況は例年に比べ悪く56%であり、調査結果に偏りが出ている可能性が高い。学校の取り組みに対し理解を示して頂いているのであれば回収率も伸びてくるところだが、そうでない状況を考慮すれば項目全体で基準を満たしても全く安心できる状態ではない。また学習指導の項目では、生徒・保護者ともに肯定的回答が基準を満たしておらず、加えて昨年度より低下しているという結果となった。学習指導が最重要事項と位置づけている中で、この結果を教員1人1人が真摯に受け止め、授業改善に努めていかなければならない。一方で、「生徒が主体的に学ぶ環境を作り出しているか」という項目では改善傾向にある。研究会やセミナーに参加する教員が増えたことや、本校主催でセミナーを開催するなどの取り組みを通して、授業改善に努めているところでもある。</p> |  |
| <p>【学習指導:授業方法】</p> <p>・2020年教育改革へ向け、全教員による共通理解のもと、具体的な準備と取り組み。</p> <p>・主体的で対話的で深い学びをつくる協同学習への積極的な取り組み。授業改善。</p>   | <p>全教員の共通理解のもと、本校でどのような生徒を育てるのか教育目標・教育方針の検討と作成が急がれる。ワーキンググループを中心に2022年度より実施の新学習指導要領に伴うカリキュラムの再考と取り組みが急がれる。(情報収集・研修・教科での検討等)。ICT機器の有効活用は昨年と比較すると進んだが、AL型授業を実践している教員が少ないのは問題である。学習の質を高める授業改善や工夫・取り組みを活性化していく必要がある。丁寧で理解できる授業に関しては、生徒からの評価も低い。学力アップと学び直しによる基礎学力定着は教員の指導力も問われる。日常的な教材研究はもちろんの事、積極的に研究会、研修会へ参加し、指導力を向上させ、わかる喜びや学ぶ事の楽しさからの意欲の向上。基礎学力の定着と主体的・対話的で深い学びの実現に向け、学習指導法の研修に努め実践して行く。</p>  |
| <p>【生徒指導:指導体制】</p> <p>・いじめ調査の継続的取り組みと委員会を中心とした未然防止ならび対策と組織的対応の継続。</p> <p>・QUテストを有効活用するための改善と情報共有。要支援生徒への組織的対策と対応の継続。</p> <p>・一貫した指導の徹底。安全教育と危機管理の強化。</p>  | <p>本校では昨年度に続き、いじめに関して重大事案につながる事案は無かった。定期的ないじめアンケート調査やQUテストを実施。情報共有しながら些細な事案についても聞き取りや調査を行い、早期発見・早期解決につながっていた。いじめ防止対策委員会を中心に組織的な動きは前進しているので、取り組みを継続する。ただし、1回目のQUテストについては、結果が届くのが遅く、効果的なものとなっていない。実施時期の検討が必要である。要支援委員会も適宜会議を行い、組織的に対応した。担任と養護教諭や教育相談員との話し合いの場を多く持つ事が大切である。生活指導では、教員間の意識のずれが有り、指導の一貫性を欠き、生徒・保護者も戸惑いを感じている事や毎年のように課題として出てくる事こそが問題である。指導部任せにせず、全教員の意識を高める必要がある。また自転車の悪戯や盗難・事故の件数が前年度と比較して多かった。マナーを含め、安全教育の徹底が必要。防犯カメラの設置の要望が強い。</p> |
| <p>【学校運営:意識改革・服務遵守。進路指導】</p> <p>・働き方改革の推進。正教員の増員要望。業務内容の見直し。</p> <p>・服務遵守。教員間の無関心・相互干渉からの意識改革。</p> <p>・ポートフォリオ、Classiの取り組みと有効活用。</p>  | <p>正教員の人数の少なさから分掌業務への影響が出ている。増員を強く要望する。今年1年間かけて、分掌業務内容の見直しの提案があったが、全体的には浸透しておらず、実施した分掌が少なかった。働き方改革の推進からも業務内容の削減や見直しが必要である。体罰調査や研修を適宜実施した。研修が無駄にならぬよう服務遵守の意識を更に高める。色々な場面で教員間の意識のずれが見られ、不満をいただいていたり、無関心・相互干渉からの意識改革が必要。互いを注意しあえる人間関係の構築を図って行きたい。進路指導においては、進路指導部による個人面談の実施や情報提供を継続的にを行い、評価を得ている。生徒・保護者との連携と要望に応じた情報提供を更に進めて行く。2020年大学入試改革へ向けた、ポートフォリオやClassiへの取り組みは、学年によって意識や取り組みに差がある。学校全体として更に積極的な取り組みが必要である。</p>                               |
| <p>※新年度の分掌業務・学級経営や教科指導ならびに部活指導に学校評価を反映させるよう、お願い致します！</p> <p>※前年度、丁寧な学習指導、基礎学力の定着、主体的に学び環境づくり、一貫した生徒指導が2年連続で低い評価となっている。重く受け止め、改善するようお願い致します。</p>   |  |

| 学校関係者評価委員会のまとめ  |  |
|---|--|
| <p>【学校運営】</p> <p>本校の強み</p>                              | <p>白樺学園高校に入学することでどんなメリットがあるのか。進学・教養コースや体育コースに所属することで、それぞれどのようなメリットがあるのか。この点をもっと具体的に示すことができれば、戦略的に生徒募集を行うことができると考える。</p>  |
| <p>【生徒指導】</p> <p>生徒指導の一貫性</p>                           | <p>コース間やクラス間で、片方では許されてもう一方では許されないといった指導の差を埋めていきながら、学校全体で統一された生徒指導の展開が必要である。</p>  |
| <p>【進路指導・学校環境】</p> <p>進路指導部との情報共有と連携<br/>学校環境の更なる改善</p> | <p>学年または年間行事として、2者面談ならびに3者面談を年間を通して行ってほしい。その事により、生徒・保護者・担任との情報共有や共通理解が得られる。学校バスの増車をお願いしたい。雨の日や冬は利用者が多く、混んでいてほとんど利用せず、自家用車で送迎していた。盗難防止のためにも是非防犯カメラやロッカーの設置を要望します。</p> |

| 第三者評価委員会のまとめ  |  |
|---|--|
| <p>【学校運営】</p> <p>組織的な取り組み</p>                               | <p>年度末の反省内容が毎年同じような内容になっていたり、不満を言うだけのものとなっている。この反省をどのようにしたら改善できるのかも含めて意見を出していかなければ、全く改善の方向には向かっていかない。また、個々の教員で改善を図ろうとしても限度があるため、組織的に改善していくことが必要である。したがって、諸会議の重要性を再認識し、効果的なタイミングでの開催と開催数を増やしていくことや、会議報告書の提出も行っていくと良いと考える。</p> |
| <p>【学校運営】</p> <p>教員の意識改革</p>                                | <p>在校生や卒業生が「白樺で良かった！」と思ってもらえるような教育を展開していかなければならない。そのためには、教員1人1人が子供たちをどのように成長させてあげたいのかという具体的な教育目標を持って職務に当たるべきであり、「教員の意識改革」が求められる。私立高校だからこそできる教育は何だろうか。白樺学園高校だからこそできる教育は何だろうか。この点が全体共有できれば、より良い教育へと繋げていくことが可能になってくると考える。</p>   |
| <p>【開かれた学校づくり】</p> <p>交流の場としての学校開放<br/>(仮名称:子育て悩み共有サロン)</p> | <p>学校長が考えている、子育ての事や日常的に悩みを抱えている保護者同士が気軽に交流やコミュニケーションが取れる場として学校を開放して行きたいという事に感銘を受けたので、是非実現して頂きたい。</p>   |